

2012年7月27日

富士フイルムホールディングス株式会社

2012年度 第1四半期 決算説明会

主な質疑応答

Q1 経営体制が変わって、中嶋社長が古森会長の功績を引き継ぐ部分とそうでない部分を、どのように考えているのでしょうか？

A1 大きい戦略はすでに古森会長の下で決まっており、あとはそれを実行するのみです。

Q2 中嶋社長への質問ですが、現場力を上げて中期経営計画「VISION80」を達成することですが、既に現場力はあると思われ、それによって厳しい外部要因を突破できるのでしょうか？

A2 まだまだ改善の余地はあると考えます。新規事業を進める上で、「市場が本当に必要だと思う機能を備えた、過不足ない商品を生産しているか？」という視点で見ると、お客様がそれほど価値を認めていないものに、必要以上にお金をつぎこんでいることが無いこともなく、さらに効率化できる部分がまだあると思っています。

Q3 フォトイメージング事業のカラーペーパーが順調だというトレンドは第2四半期以降も続くのでしょうか？

A3 今後も続く見込みです。

Q4 フラットパネルディスプレイ材料事業の実績と第2四半期の見込みは？

A4 実績は、前年比 30.4%減の 372 億円でした。プレーンタック、VA 用フィルム、IPS 用フィルムともに好調であり、キーは WV フィルムにあると考えます。ただし、モニター用向けのパネルメーカーが極限まで在庫を絞っている状況のため、2Q 以降は徐々に市場が回復し、下期以降で本格的に市場が回復すると見えています。

Q5 フラットパネルディスプレイの TN モード(WV フィルム)の今後についての考え方は？

A5 WV フィルムから、一部 IPS 化は進んでいますが、想定範囲内です。モニター市場全体は大きく減るとは見ておらず、横ばいか微増とみえています。

Q6 今までメディカル・ライフサイエンス系の M&A を進めてきましたが、今後も続くのでしょうか？

A6 今までは、事業構造の転換のため時間とノウハウを買うべく、メディカル・ライフサイエンス系を中心に大規模な M&A を行ってきました。今後は M&A により仲間となった会社のノウハウを統合して拡大させる方向です。ただし、今後も新規分野については M&A を行う可能性はあります。

Q7 2012年3月末時点から人員が減っている理由は？

A7 光学デバイス事業の中国工場における生産効率化に伴う減少です。

Q8 ドキュメント ソリューションの結果は想定線でしょうか？

A8 エリア軸でも国内・アジアパシフィック、米国ゼロックス社向けと全て良く、製品でもオフィスプリンターとオフィスプロダクトが伸びており、良い結果であると認識しています。

Q9 ドキュメント ソリューションの米国ゼロックス社向け輸出の見通しは？

A9 足元ではネガティブなサインは出ていません。

Q10 オリンパス社との提携について、相手側から見て富士フイルムとの提携によってのみ得られるメリットはありますか？

A10 当社の得意とするメディカルITシステムとの組合せにより、画像診断支援の領域を広げられると考えています。医療全体にとってのメリットは大きいと考えます。

Q11 フリーキャッシュフローの使い道の方針や、株主還元についての考え方は？

A11 今まで通り、配当中心の考えに変わりはありません。状況に応じ機動的にバイバックを行うという方針に変わりはありません。ただし現在の株価は低すぎ、異常値と思っており、必要な施策も検討しなければならないと考えています。

以上